

(6) 東海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)。

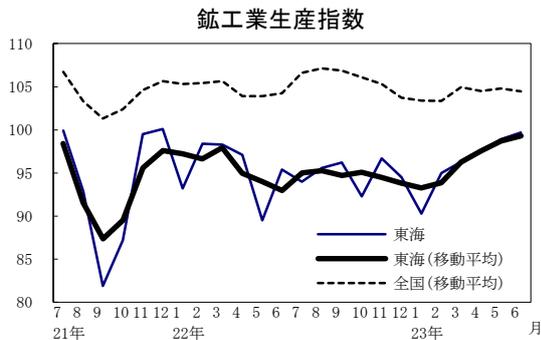
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年5月)	今回 (令和5年9月)	
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	↑
個人消費	持ち直している	緩やかに持ち直している	↓
雇用情勢	持ち直している	改善の動きがみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

4－6月期の鉱工業生産は、前期比5.1%増となった。月別にみると、4月は「電子デバ、電気・情報通信」が増加したこと等により前月比1.2%増、5月は「輸送機械」が増加したこと等により同1.4%増、6月は「電子デバ、電気・情報通信」が増加したこと等により同0.8%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。東海の最新月は速報値。
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
3. 東海は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	40.1	4.2	10.8	▲0.3	6.0	0.1
電子デバ、電気・情報通信	13.3	▲6.3	1.3	12.0	▲10.7	6.5
石油・石炭、化学、プラスチック	13.0	▲0.4	2.9	2.2	▲0.2	▲0.8
鉄・生産・業務用機械	11.2	▲6.5	▲0.5	▲3.8	5.3	▲0.7
鉄鋼業、鉄合金、金属製品	6.4	▲2.1	3.8	1.1	▲1.2	2.1
鉱工業	100.0	▲0.7	5.1	1.2	1.4	0.8

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4－6月期、6月は速報値。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

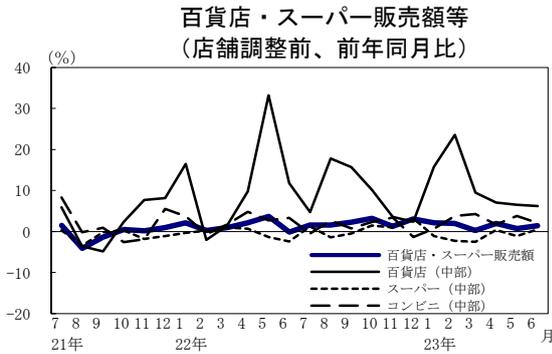
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4－6月期は前期比0.9%減となった。月別にみると、4月は前月比1.2%減、5月は同0.4%増、6月は同0.6%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4－6月期は前年同期比1.4%増となった。月別にみると、4月は前年同月比2.0%増、5月は同0.7%増、6月は同1.4%増となった。



	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDEI（消費*1）	▲0.9	▲1.2	0.4	0.6
百貨店・スーパー*2)	1.4	2.0	0.7	1.4
百貨店*3)	6.6	7.1	6.5	6.2
スーパー*3)	▲0.1	0.4	▲1.1	0.5
コンビニ*3)	2.5	1.7	3.8	2.1
乗用車*4)	20.6	18.3	18.7	24.3
(季節調整値)*4)	5.0	7.5	▲2.9	7.1

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

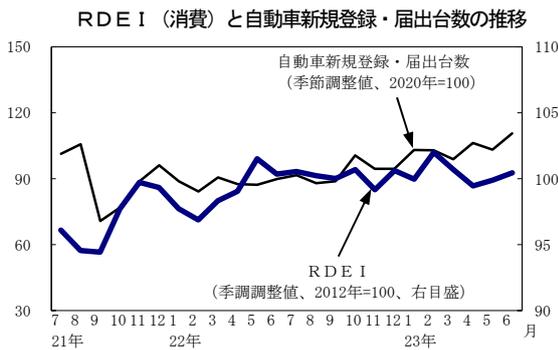
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部（富山、石川、岐阜、愛知、三重）の値。

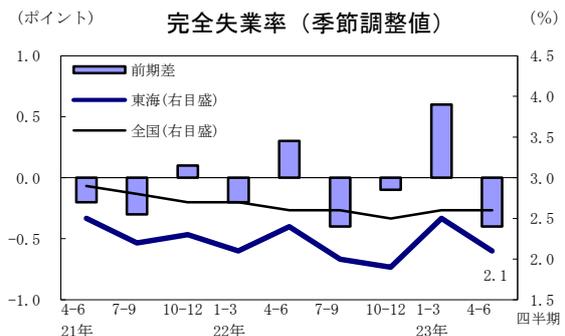
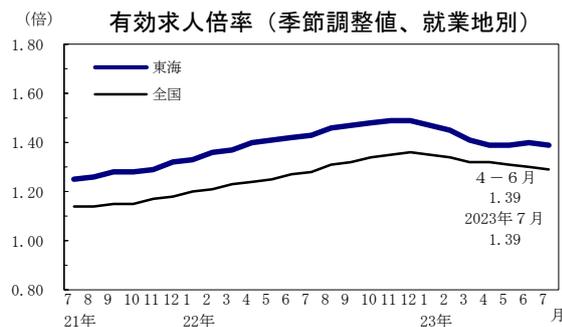
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比)(%)



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある（P10 参照）。一般労働者の定期給与は上昇している（P10 参照）。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年7月調査）景気判断理由の概要

6. 東海

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・ボーナス商戦は前年同期比 115%と好調であった。消費者には、物価高を気にする様子があるものの、消費意欲がある（その他飲食 [ワイン輸入]）。	
		○	・夏祭りや地域イベントが復活し、少し街に活気が出てきた（コンビニ）。	
		▲	・暑くなって忙しくなる時期であるが、客が余り来ない（理美容室）。	
	企業 動向 関連	□	・原料価格の高騰は一段落し、原料価格の上昇分をある程度製品価格に転嫁できた。ただし、客は原料純度を下げた製品への切替えや他社製品への切替えによるコストダウンの取組を始めている（窯業・土石製品製造業）。	
		▲	・生産計画が少し増えている（輸送用機械器具製造業）。 ・工作機械関連の受注が極端に落ち込み、生産量にすると約3割減少の状態になっている（電気機械器具製造業）。	
雇用 関連	□	・求人数は3か月前と比べ大口の求人が増えている。業種別では、小売業、宿泊業、飲食サービス業で増加がみられる。人の動きが活発となり、人手不足が大きく影響している。反面、製造業等は余り変わらない（職業安定所）。		
その他の特徴 コメント	○	○：来客数が前年を上回り始め、値上げによって1品単価が上がったことで、売上が前年を上回るようになってきた（スーパー）。		
	□	□：全国旅行支援も終了に近づき、関連の客は減少しているが、その反面、コロナ禍が明けた反動で海外旅行の希望者が若干増えている（旅行代理店）。		
先行き	家計 動向 関連	□	・7月に入り前年比での来客数と売上は好調を維持しているが、前年8月は新型コロナウイルス感染症のピークがあった反動による増加と判断している。9月以降、インバウンドの売上増加は見込めるものの、中間層の購買動向は物価高の影響を受けて生活防衛の傾向が強まると予測している（百貨店）。	
		○	・新型コロナウイルスの感染拡大がないわけではないが、警戒感や不安感がなくなったことが後押しとなり、3年以上旅行に出掛けていなかった人の需要が戻っている。秋口には、かなりの予約が入る気配がある。このままの状況が続けば、更に景気は良くなる（観光型ホテル）。	
	企業 動向 関連	□	・主力の自動車向け設備が低調である。それ以外の産業向け設備も引き合いや問合せは増えておらず、好転する材料が見いだせない（一般機械器具製造業）。	
		○	・建設の受注は底堅く、大手自動車メーカー系の設備投資も新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて受注が見込めそうである。ただし、分譲住宅は税制優遇の縮小もあり、駆け込み需要が見込めるのか静観となるのか先が見えない（建設業）。	
	雇用 関連	□	・全体の傾向として良くなる方向にあるとみているが、物価高や燃料費高騰等のマイナス要因もあり、2～3か月先の状況が現状より良くなるとは思えない（学校 [大学]）。	
その他の特徴 コメント	○	○：派遣依頼数も順調に増加しており、例年よりも市場が活発に動いている印象を受ける。ただし、人手不足は変わらずでニーズに対応し切れない感があり、人材確保が鍵となる（民間職業紹介機関）。		
▲	▲：ここ数年は残暑のため秋物の立ち上がりも遅いところに諸物価の上昇が響いて、なじみ客であっても実需期にならないと来店してくれない（衣料品専門店）。			

(D I) 現状・先行き判断D I（東海）の推移（季節調整値）

